

(フルート部門)

会場:東条文化会館コスミックホール

発行日 2024年11月9日(土)

(第2号)

まつとねつと

二次予選出場者 14名が決定!

今回は、参加者がハイレベル者ぞろい。

第二次予選出場者の選出に思いのほか時間がかかりました。審査員の方々の慎重な審議の結果、14名の方が選出され、二次予選進出者が決定しました。

二次予選出場者 (エントリーナンバー)

- 6 9 25 28 30 44 45
- 46 54 56 67 74 75 78

【二次予選 課題曲】

以下の①②より1曲を選択

① Franz Schubert :

Introduction und Variationen über ein Thema "Ihr Blümlein alle" aus den Müllerliedern Op.25 für Pianoforte und Flöte e-moll D 802 Op.160

Variation II, IV はカット繰り返しはしない

② S.Karg-Elert:

Sonate B-dur Op.121

審査員特別演奏会のお知らせ

日 時 11月10日(日)午後4時30分頃~

(審査終了後、ステージの準備が整い次第、特別演奏を始めます。)

場 所 ホール

曲 目

1. ·Friedrich Kuhlau フリードリッヒ・クーラウ
·Trio op.13-2 I楽章
1st 中務晴之 2nd 長山慶子 3nd 清水信貴
2. ·Claude Debussy クロード・ドビュッシー 神田寛明編曲
·ベルガマスク組曲より プレリュード Suite Bergamasque Prelude
1st 神田寛明 2nd 高木綾子 3nd 高橋聖純 アルト 橋本岳人

発行:日本木管コンクール委員会

〒673-1311

兵庫県加東市天神66

TEL 0795-47-1500



一次予選出場者のみなさんの感想

自然豊かな中のホールで、とてもゆったりと演奏できました。優勝をめざすだけでなく他の方の演奏を聞くことも私にとって勉強になります。ホールの響きがとても良くて、その響きが演奏を支えてくれました。

このコンクールに来たのは初めてです。このコンクールは有名だし、先生もこのコンクールに出されていることを聞き、挑戦しました。とても緊張しました。

母がオーケストラに入っていました、小学生の頃から色々な楽器にふれる中、フルートの音色の美しさとかキラキラ輝く様子を見て、フルートをやりたいなと思うようになりました。このホールは残響が2秒と聞いていたのですが、あまり響きすぎることもなく、とても演奏しやすかったです。

一音吹いただけですごく響いてびっくりしました。それで、力まなくても気持ちよく吹けて良かったです。

音大の4回生。フルートはなめらかに音がつながり、柔らかく、力強く響く豊かな音色が好き。自分の伝えたいことが届けられるように、練習の時から自分の音を客観的に評価できるように録音したり聞いてもらった通りしている。琵琶湖や姫路のコンクールなどいろいろなコンクールに参加してきた。ここは初めて。よく響くので、速くなりがちなのでゆっくり落ち着いて吹くことを心掛けました。



個別講評について

日 時 11月10日(日)
午前10時30分~11時40分(予定)場 所 ホワイエ
指 導 個別講評の審査員は、当日抽選で決めます

コスミックホールの1年の歩み

「...スーパーキッズオーケストラ LIFE(R6.9.22) ...」「...ジャンボ紙ずもう大会(R6.8.4) ...」

スーパーキッズオーケストラは、全国の小学生から高校生をオーディションにより選抜、佐渡裕さんが指導・育成されているオーケストラです。その演奏技術と純粋な音楽は聴く人の心を打ち、全国から注目を集めています。



待ちに待った、スーパーキッズの演奏。今回は、指揮者に大谷麻由美さんをお迎えし、エネルギーッシュな演奏がホールいっぱいに響き渡りました。卓越した演奏技術と表現力はもとより、音楽を心から楽しみ、まっすぐに音楽に向かう子どもたちの姿に魅了され、ホールが感動に包まれました。今回は特別ゲストとして、命の大切さや尊さを発信し続ける橋本昌彦さんの歌と映像による「LIFE・いのち」が上映されました。素晴らしい映像と音楽が相まって、生命の起源に迫る壮大な旅を満喫しました。

【来館者の感想】

- ・スーパーキッズが立ち上がった時から、早く聴きたいと待っていて念願が叶った!
- ・スーパーキッズは本当にスーパーでした。感動しました。
- ・磨き抜かれた表現力、楽しい演出、佐渡さんの指導力、卓越した技術がここまで引き出されるのかと驚くばかり。まさにスーパーキッズ!



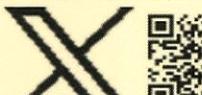
「ジャンボ」ってどれくらいの大きさ? 実は身長150センチ位のダンボールの紙ずもうなのです。

4人組の中学生のすもう部屋あり。乳児・園児・パパ・ママの部屋あり。ピアノ塾の仲間の部屋あり。姉妹とおばあちゃんの部屋あり。午前中は大きなダンボールで力士制作に取り組み、ユニークな名前

前の力士が次々と出来上りました。

午後には、いよいよ本番のすもう大会。声高らかに呼び出しの声がひびき、板張りの土俵上で取り組みはじめまります。行司の「はっけよい、のこった」の掛け声がかかるや、一斉にドンドンドンドンと土俵をたたいて力士にパワーを注入します。今年はなかなか勝敗が決まらぬ熱戦が続きました。呼び出し・行司のスタッフも、たたき手も応援団も、汗びっしょりでした。

地域の商店様より、コロッケ、ラーメン、バウムクーヘンの協賛品をいただき、大満足のうちに終了しました。

加東市東条文化会館
コスミックホールホームページ
<http://cosmic-hall.org/>

第35回日本木管コンクール

(フルート部門)

会場: 東条文化会館コスミックホール

発行日 2024年11月9日(土)

(第2号)



発行: 日本木管コンクール委員会

〒673-1311

兵庫県加東市天神66

Tel 0795-47-1500



*委員名は五十音順です

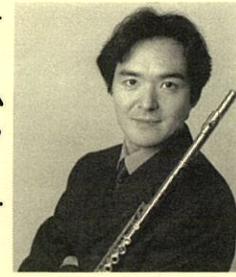
審査員の先生による 一次予選 講評

高木 綾子 (審査委員長) 東京藝術大学音楽学部准教授、洗足学園大学客員教授



1次予選のクラウは両曲とも大変難易度の高い曲となっています。その中で、暗譜で演奏した方も数名いて、熱意を感じる事ができた2日間でした。cis mollは丁寧さと歌心、そして調性の変化に寄り添った自由さを求める曲です。9/8拍子は3/4拍子ではなく、かといって♪×9でもない、その拍子感を音程の定まりにくいcisから始まる…そこを上手に誘導するのがespressivoかと思います。時々見せるdurの音楽への変化をどう表現するか、考えてみてください。agitatoの意味を考えると、テンポだけではない速度変化もつけられると思います。Ddurでは、分散和音が停滞してしまう演奏が目立ちました。歌う事に集中するだけではなく、フレーズの主となる音形をまず探すようにしてみてください。「ぶってよマゼット」のテーマは総じて遅すぎます。Var.が難しいので安全運転をしているのかだと思いますが、そこは上手に音楽的な面で調整できると良いですね。

清水 信貴 (運営委員長) 相愛大学音楽学部教授、神戸市室内管弦楽団首席奏者、一般社団法人日本フルート協会副会長



クラウの音楽についてはフルートのベートーヴェンなどとも言われております。Divertissementの最初はピアノでピアノパートにフルートパートを合わせて弾いてみると雰囲気が分かると思います。私の個人的な解釈では、皆さんセンチメンタルになり過ぎる傾向にあるのではないかと思います。あとは書かれているアクセントやクリッションド、ディミヌエンドの位置、ダイナミクス記号などの意味をもっと考えて演奏できれば良いかと思いました。Allegro AgitatoはAllegroであってPrestoではないのと、作曲家の国籍なども加味してアーティキュレーションの明瞭さも必要だと思います。途中のmeno allegroはとても良いところですのでもっと味わって演奏したいなと思いました。

神田 寛明 NHK交響楽団首席フルート奏者



クラウOp.68のNo.6と他の5曲を比較すると、使うべき「音量とその性格」は、躍動感を備えた「強いフォルテ」が必要なのが3曲、控えめ、上品で軽め、感情の内側を表すような「柔らかいフォルテ」に支配されるのが残り3曲だと思います。No.6は後者でしょう。No.1、No.5は「舞曲」を含むこと、No.3は（まったく同じではないが）テンポの推移を、No.6との共通項として指摘することができます。同じ作者、あるいは同時代の他者作品との比較研究はとても有意義です。Op.38-1は3部構成。第2部は悲劇的な性格を持つAllegroで、Prestoではありません。ただ速いだけでは感情が空回りし、心を突き刺すことはできません。ベートーヴェンを学ぶ機会が少ない私たちフルート吹きにとって、クラウは初期ロマン派の指標となる宝物です。

高橋 聖純 国立音楽大学准教授、元札幌交響楽団首席フルート奏者



1次予選を聴いていて気になった事の1つにブレスの事があります。フルートを吹くには息が必要ですし、吹いていれば息は無くなっていくので当然ブレスを取る必要があるわけですが、どこでどうブレスを取るかということは音楽的にとても重要です。フレーズとは、例えるなら台本に書いてある文章やセリフのような物。どこからどこまでが1つの文で、どこまでが主語でどこからが述語なのか?というふうに考えれば、主語と述語の間にブレスを取るのが自然でしょう。またセリフだとすればどこを一番言いたいか?を考えると、どこでブレスを取るべきかが分かるでしょうし、逆にどこまでは一気に喋るべき、というのも見えてくると思います。楽譜を読む時にそんな見方をすると、自分にとって適切なブレスの場所というのが見つかるかもしれませんね。

中務 晴之 大阪教育大学名誉教授・特任教授、大阪音楽大学非常勤講師



第1次予選、映像審査を通過した皆さんの安定した演奏を聴かせてもらいました。課題曲である2曲の題名の意味を皆さんどれくらい理解していたでしょうか。ディベルティメント(嬉遊曲)はより人を楽しませる要素がないといけません。前半のラルゲットの部分は余裕のあるテンポで説得力のある演奏を聴かせて欲しかったですし、速い部分は吹き飛ばす人が多かったのが残念です。ファンタジーは一本調子になりがちなので、多様な音色を駆使して演奏しての表現をすべきでしょう。そして特にディベルティメントはフルートという楽器の最も不安定なC#の音が基本となっている調です。この音を中心として音程、音色にもう少しこだわりがあっても良かったのではないかでしょうか。

長山 慶子 大阪音楽大学教授



「表現力」とはなんでしょう。皆さんはレッスンでもっと表現して!とか、もっと歌って!など日頃から言われたり、練習中も悩んだりしていることでしょう。今回1次予選を聴いて上手いなど感じた演奏は、指のテクニックや音色の良さだけではありませんでした。なぜなら、それらは十分出来ている人たちばかりでしたから。では、1次予選に残った人たちの演奏、印象に残る演奏とは?どのような演奏なのか考えてみました。pianoを大切にし、ヒステリックにならないforteを演奏できる人、常に音程に気を配っている人、どれだけ速いパッセージでも、柔軟に音色のコントロールができ音程が安定している人、低音・高音のバランスを考えている人、構成力・骨格をしっかり考えて演奏している人、そして、その人の持っているセンス etc…これらを意識しながら1次予選の課題曲を今一度表現してみませんか?

橋本 岳人 愛知県立芸術大学准教授、名古屋音楽大学講師



課題曲であるクラウの2作品は、どちらも10分近く殆ど休みも無い難曲。それにも関わらずレベルの高い演奏が続き、あっという間に2日間の1次予選が終了しました。技術や音色等向上していると思いますが、楽譜に記された事を読み込んだ上で、譜面に書かれていないこと、その音やフレーズにどのような歌や命を吹き込むかを考えて演奏して欲しい場面もありました。アゴーギグに正解はありませんが、音価から大きく乖離されていた方もいたので音楽、様式感にフィットしたアゴーギグを目指してください。また会場の響きを掴んでアーティキュレーションのクリアさ、テンポ感等を一考するとより聴衆の耳を惹き付ける演奏になると思います。2次予選に進めなかった方の中にも多くの才能を感じました。参加者の皆さんのお今後の成長を楽しみにしています!

~加東市ふるさと納税(ふるさと応援活動支援金) によるご支援をお願いいたします~

特定の団体(支援希望団体)に対する寄付の受付を開始しています。

QRコードをスマート等で読み取っていただくと加東市ふるさと応援活動支援交付金交付制度のページにつながります。申請用紙については、ホームページからダウンロードできます。

特定の団体(支援希望団体)については、「特定非営利活動法人”新しい風かとう”」にお願いします。

詳しくはホームページをご覧ください。

また、団体名をクリックしますと「特定非営利活動法人”新しい風かとう”」のホームページをご覧いただけます。



~日本木管コンクール開催における協賛・ご寄附に ご協力ををお願いいたします~

日本木管コンクールは、地元の企業や楽器メーカー各位をはじめ、コンクールを応援してくださる個人の皆様の温かいご寄附とご協賛に支えられて取り組みを続けてまいりました。この素晴らしいコンクールと文化の灯を消してはならないとの思いと、若手音楽家の登竜門として、また日本の音楽文化の発展に寄与してきた功績をご承知いただき、引き続きこのコンクールを継続していくため、多くの方々にご支援を賜りますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

詳しくは「特定非営利活動法人”新しい風かとう”」又はQRコードをスマート等で読み取ってご覧ください。



加東市東条文化会館
コスミックホール



ホームページ
<http://cosmic-hall.org/>

